

爪囲炎(そういえん)について

爪周囲皮膚に炎症を起こし、発赤や腫脹を伴うと爪囲炎と呼ばれます。細菌やカンジダによる感染が原因となる場合、湿疹や皮膚炎が原因となる場合があります。

①細菌感染が原因の場合

強い自発痛や圧痛を認めます。黄色ブドウ球菌や化膿性レンサ球菌が原因ため、抗菌薬の内服加療を行います。炎症が深くまで波及すると化膿性爪囲炎となり、ひょう疽(ひょうそ)と呼ばれることもあります。膿瘍を形成する場合には切開、排膿が必要です。治療は抗菌薬(セフカペンピボキシル塩酸塩など)の内服です。

②カンジダ感染が原因の場合

発赤と腫脹は認めますが、痛みは軽度です。水仕事の多い人に生じやすいとされています。治療は抗真菌薬(ルリコンクリームなど)の外用を行います。

③湿疹・皮膚炎が原因の場合

かゆみを伴う発赤と腫脹を認めます。接触性皮膚炎が疑われる場合には原因検索を行います。ステロイド(アンテベート軟膏など)の外用を行います。